

## 2024年度 教員の自己点検・自己評価報告書

所属学部 学科	職位	氏名
教育学部 子ども発達学科	教授	鈴木直政
最終学歴	学位	専門分野
愛知教育大学	学士	社会科、生活科

### I 教育活動

#### ○理念・目標・方針・計画（方法）

##### 【理念】

情熱と使命感をもって、教育活動に取り組もうとする学生の育成

##### 【目標】

- ・採用試験合格を目指し、意欲をもって「教採特別講座」に取り組むようにする。
- ・教師としての実践的指導力を身に付ける「指導力向上特別講座」を企画し、多くの学生の参加を促す。

##### 【方針】

- ・採用試験に臨むうえで、受験希望自治体の情報分析を十分行うとともに、一人一人が自分の課題を把握し、その課題克服に向けて努力できるようにする。
- ・「愛知県教員育成指標」に示された「着任時に求められる指導力やマネジメント力」をもとに、現代の教育課題を踏まえて、教育現場に立った時に生きるように「指導力向上特別講座」の内容を工夫する。加えて、多くの学生が参加するよう働きかけに努める。
- ・授業参観や行事参加など、教育現場に直接触れる活動については、名東区内の学校等との意思疎通を十分に図るようにする。

##### 【計画(方法)】

- ① 前年度までの採用試験の出題傾向を分析したものを資料化するとともに、教科別・分野別の過去問題を作成し、一人一人が課題克服のために取り組むことができるようにする。
- ② 採用試験の早期化によって、大学3年生も採用試験を受験できるようになった。今年度から特別講座に2年生も参加できるようにして、2・3年生合同で進めていく機会が増えるが、その内容や方法についてより効果的なものになるよう工夫していく。
- ③ 「指導力向上特別講座」の拡充に向けて、学生に周知が必要な事項については、その都度関係教員を通して「教職支援センターニュース」等を配布する。
- ④ 技能の獲得が求められる事項の演習を充実させ、名古屋市の先進的な教育実践校や名東区内の学校行事等の参観を行う。

#### ○担当教科（前期・後期）

（前期） 教員採用試験特別講座（週3時間） 生活（5時間）

（後期） 教員採用試験特別講座（週2時間） インターンシップB 生活科教育法（5時間）

#### ○教育方法の実践

- ・教員採用試験特別講座では、個々の学力に応じて学習を進めるようにした。
- ・インターンシップBでは、事前に授業を見る観点を一人一人決め、授業参観後はその観点を沿って振り返りをした上で、学んだことを全体で共有するようにした。

## ○作成した教科書・教材

- ・教科別、分野別の問題集（小学校全科及び教職教養）

## ○自己評価

教採特別講座で使用する資料、特に専門教科の学習で活用する資料については、学生個々に学力差があるため、個々の学力に合わせて教材を用意するようにした。学生は自分の力に応じて問題提示されるため、意欲的に取り組む姿が多く見られ、個々に学力の伸びも見られた。ただ、そうした教材の作成にはかなりの時間が必要となるため、来年度以降も継続して教材作成に取り組むことが必要になる。

採用試験の3年生受験が始まったため、2年生も参加する形で特別講座を計画した。おおむね順調に実施してきたが、年度の終盤になると、いよいよ本番間近というプレッシャーを感じる3年生と、3年生になっての試験はあるものの本番は1年以上先になる2年生とはかなり意識の差が出てきている。その差に対応するのはなかなか困難な面がある。

指導力特別講座については、学生の関心が高いのは実際の授業を見る活動で、授業参観には多くの学生が参加した。こうした講座に多くの学生に参加させるためには、広報も必要だが、学生の関心のある講座を開設することや平日に開催する可能性を探っていくことも必要だと考える。また、デジタル教科書を始めとするICT機器に関する講座にも必要観を感じる学生も多く、かつ今後に必要な技能でもあるため、来年度からも力を入れて進めていきたい。

## II 研究活動

### ○研究課題

採用試験合格に向けての力量の向上をはかるとともに、教員としての資質・能力を高める効果的な特別講座の在り方を探求する。

### ○目標・計画

#### 【目標】

- ・教採特別講座において、教材の内容や課題設定の方法について工夫し、知識・技能を効果的に獲得させるようにする。
- ・教育現場の課題を受けて、その一つであるICT機器活用の必要性を認識させ、基本的や扱い方や授業における活用方法などを身に付けさせるようにする。

#### 【計画】

- ① 教科別・分野別の過去問問題集を作成し、学生にとって、個別最適な学びを進めていくようにする。
- ② 学生の受験希望自治体の試験傾向を分析し、関連のある問題を繰り返し解くことからポイントを絞った学びを進めていく。
- ③ 名古屋市や名東区の学校との連携を密にし、先進的な授業や学校行事を参観し、学校現場の理解や創意工夫した取り組みについて学ぶようにする。
- ④ 学校が使用しているソフトやデジタル教科書について学ぶ講座を開設するとともにそれらに繰り返し触れる機会を確保する。

### ○2017年4月から2025年3月の研究実績（特許等を含む）

- （著書） なし
- （学術論文） なし
- （学会発表） なし

(特許) なし

(その他) なし

○科学研究費補助金等への申請状況、交付状況（学内外） なし

○所属学会 なし

○自己評価

①については、数学と理科については分野別の過去問集を作成した。時間的制約もあって十分なものとは言えないが、一層充実したものにするよう、来年度も継続して取り組んでいきたい。さらに、他教科についても手掛けていきたい。

②については、教職教養問題を中心に、これまでの取り組みを受けて研究を進め、より充実した問題集にすることができた。

③については、これまで通りの取り組みを進めてきた。参観した授業等を振り返ることが重要と考えて、授業のポイントとをまとめたプリントを配布してきたが、それらについて解説を加える時間を確保して、参観した中からより多くのことを学ぶことができるよう工夫していきたい。

④については、デジタル教科書について学ぶ講座を実施した。一定程度の理解をさせることはできたが、その活用方法についての技術を習得できるように、内容の工夫を図っていきたい。

### Ⅲ 大学運営

○目標・計画

#### 【目標】

- ・ 教職支援センター長として、教員採用試験の実施方法がわかりつつある中、特別講座の日程や内容を工夫してできるだけスムーズに運営し、センター業務をさらに充実させる。

#### 【計画】

- ① 教員採用試験の早期化によって、これまで通りではうまく進まないことをピックアップして、特別講座をより有効に実施できるよう、教育学部部会・人間健康学部部会と連携を図って取り組んでいく。
- ② 文科省による教職課程「実地調査」の可能性が高いので、その準備を進める。
- ③ 教育学部の体験型実践プログラムの検討にあたって、学校現場参観などこれまで教職特別講座で実施してきた内容や進め方などの情報を提供し、より有効なプログラムの作成に協力する。

○学内委員等 教職支援センター長

○自己評価

①については、教員採用試験の早期化対策として、2年生から教採特講に参加できるようにした。これは来年度からも継続していきたい。さらに、来年度からは、大学推薦を実施する自治体が増えてきているので、大学推薦の方法についても研究を進め、教育学部部会・人間健康学部部会と連携を図って適切な方法で実施していきたい。

②については、年度初めに、実地調査があった場合の役割分担を確認した。今年度は実地調査が無かったが、来年度についても備えはしておきたい。

教育学部の体験型実践プログラムの検討にあたっては、検討 PT に参加した。これまで実施してきた指導力特別講座の資料を提供して検討の材料としていただいた。今後、体験型実践プログラム（フィールドラーニング）の形がはっきりしてきたところで、指導力特別講座の内容や実施方法について検討をしていきたい。

#### IV 社会貢献

##### ○目標・計画

###### 【目標】

- ・各種の学校支援ボランティア活動の紹介に努め、希望者を学校等に派遣することで、学生の成長の機会にするとともに、派遣先の学校等に役立つ役割を果たして学校運営に貢献し、名東区内の幼稚園・保育所・小中学校との連携をさらに深めていく。

###### 【計画】

- ① 教職支援センターニュースの発行や教職支援センター掲示板への掲示を通して、学校支援ボランティアの紹介に努める。
- ② 名古屋市教育委員会や名東区校長会との連絡を密にし、互いに協力する体制を続ける。

##### ○学会活動等

特になし

##### ○地域連携・社会貢献等

- ・土曜学習いきいきサポーターへの学生の参加を推奨
- ・小学校への学校支援ボランティアの派遣
- ・名東区校長会等へ依頼しての授業参観

##### ○自己評価

学生ボランティアには、様々なものがある。名古屋市が実施する「土曜学習いきいきサポーター」に参加したり、各学校へ学校支援ボランティアとして派遣したりする活動に取り組んできた。参加した学生からは、楽しく活動できているし、先生方の様子を知ることができてとてもためになるという感想が聞かれている。子どもとの触れ合いを楽しんだり教師の日常的な取り組みに触れることで、教師を目指そうとする意識が高まるという効果もあるので、今後も継続するとともに、より多くの学生が取り組むようにしていきたい。

#### V その他（自己研鑽等）

- ・教育事情に関心を持たせる資料の作成と活用

##### ○自己評価

その都度、資料を作成するための時間がなかなか取れないため、「教育新聞」を教職支援センターに置くようにしたが、なかなかそれを手に取る学生は見られなかった。新聞の切り抜きでもよいので、資料を作成して掲示するなどの工夫が必要である。できればそれを解説するとよいのだが困難な面もある。

#### VI 総括

教職支援センターの最大の役割は、教員採用試験に合格できるようにすることである。この教員採用試験について、試験日の前倒し・3年生受験の実施に加えて来年度からは大学推薦の拡大と実施方法が変化してきている。そして、各自治体によって実施方法が一律ではない。このように大きく変化する情勢においては、まず、情報収集が必要である。各自治体が公表する採用試験実施要項をしっかりと分析してその全容を正確に把握することが欠かせない。その上で、情報を関係職員と共有しつつ、学生にも適切に情報提供して、一人一人の意向に沿った対策を講じて教員採用試験合格に向けて取り組んでいくことが必要である。

もう一方で、教育実習そして教員として子どもを指導する上での指導力を高めることにも取り組んできた。これまでも様々な取り組みを進めてきているが、学生が一番関心を示すのが授業参観で

ある。そして、参観する授業の内容と連動した形で指導力向上特別講座の内容を再検討していく必要がある。とりわけ、ICT 関連の内容については、学校現場でも注目されている内容なので、より充実を図りながら講座を実施していきたい。

以 上